

今月の十人+1

深山睦美

ただのたなか

きんかく

彩結ゆあ

武井窓花

森屋たもん

全美

鈴木智花

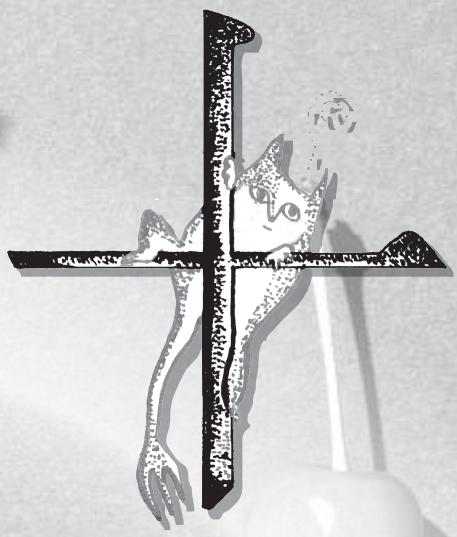
偽名

海

発行人 吉田岬

二〇二五年五月十日 発行

五月号



セーターを着せられているロボットに襲いかかった野生のロボット

旧式のロボットたちはコンテナの隅で寄り添いあって眠つた

子守用ロボットAは幼児型ロボットBを抱いて眠つた

ワタクシハ キカイダカラ と言わせよう泣けるロボットとして売るために

ロボットが自殺をした日、人間が人間だけじゃ無くなつた日に

故障ではなく自殺だと主張する声にノイズのある遺族ロボ

戦争をさせられていたロボットの受け入れ先がまだ決まらない

幽霊が怖いかという項目にtrueを返す元兵器ロボ

ガンダムの形のチョコをロボットにあげようきっと喜ぶでしょう

被告人破壊ロボ甲、廷内で目からオイルを垂らすんじゃない

星月夜 きんかく

やれるだけやつても無理で Jupiter はこの先ずっと恒星じやない
万物に愛は必要ないことを囁き続けて アリストテレス
午前二時踏切へ行く体力があるわけなくて頬に彗星

星に名をつけるみたいに新しいあだ名ください燃え尽きるまで

〔眠る〕とは過去の光の眩しさに目を閉じ夜を耐え忍ぶこと

喪失の単位はパルス 生きている 生体電気の痛みを持つて

この星の奇跡を使い果たしても二度と会えない春、星月夜

明星に夜道を照らす義務はなく今日は誰にも笑わなくていい

桿組みを定めるように抱きしめてほしい孤独がここにあります

深山睦美 ビカムヒューマン

寂しさと手を繋いだらこいぬ座のような微かな光 あなたへ

駅までは波の話をしたりしてふたりでいても少し寒かった

終わらない音がまだ鳴るあの夜に踊つてばかりのきみは海だった

触れたのはからっぽの目と冷えた皮膚それでも全部欲しくて泣いた

浴びたくなる陽射しの季節に 彩結ゆあ

雑草の生き生きしさを見習いたい草むしりだるい五月の言い訳

帰れない場所がひとつ増えた日の夕焼けがまだ笑っていた

はしゃいだら少し近づける気がしてつま先だけで立つていた午後

手をふれば誰もいないと知っているでも振り返るくせが抜けない

一言で全てが変わると知つていて言えなかつた。だから祈つた

缶珈琲が寂しい味で良かつたなきみの話をちゃんと聞けたし

あとがきは人生でいうどの部分 余韻の味わい方を知りたい

おばあちゃんになる想像はおばあちゃんもうまくできずに老い老い死んだ

母の日を母の日として過ごしたことなくとも私、愛がわかるよ

あきらめることのがんばりすぎることおんなどくら悔しい 撫てる

海がきこえた ただのたなか

どうしてもきみの横顔を忘れないだけで何も変わらない朝

泣きたくない散るたび泣けば花よりも先に私の水が足りない

泣きたくない散るたび泣けば花よりも先に私の水が足りない

スター・チス 登場人物ふたりでも記憶はふたつと限らず雨漏り

寂しいけど寂しさみればねちょねちょとしていてあまり寂しくなさそう

傘と傘立てはなるべくこだわつて雨を嫌いになれずにいたい

駅までは波の話をしたりしてふたりでいても少し寒かった

終わらない音がまだ鳴るあの夜に踊つてばかりのきみは海だった

触れたのはからっぽの目と冷えた皮膚それでも全部欲しくて泣いた

風までもきみの味方と思つてたやがて沈黙海がきこえた

五番目のひとになります五番目はつまりいちばん最後のひとり

たのしげなお祭囃子こんにちはところで何故生まれてきたのです

雨降りの午後に埋もれる一片の紙片恥ずかしい過去ばかり

永遠に忘ることはできませんだからわたくしに来る永眠

余計なことばかり言つてたぶんもう散った花だと思われている

さようなら君の名前は忘れないたとえ今が新月の夜でも

筆圧が強すぎるから付いた跡僕のやりかたで空を破つた

銀色がひかっているね金色とならんてひかっているねどちらも

スパークリングワインの透明がきれい僕はずつと無音だよ

今朝までにハナミズキは開花しました夏が好きなら忘れてくださいね

鳩になる日 全美

鎌倉の駅を降りたら鳩サブレ鳩鳩鳩の群れ押し寄せる
豊島屋と言えども知らぬと君は言う鳩の店だと首を前後に
お土産は黄色い箱と決めているこれで5箱目豊島屋鳩サブレ
拳銃のように持つ時引き鉄は鳩の尾羽で心許ない
ポツポツてキスせまる祖父の顔やさしい人はすぐいなくなる
鳩サブレ買うと生きた鳩がお辞儀する行き届いた教育（嘘）
駅前のハト捕まえてプレスしてそうして出来た鳩サブレ（嘘）

鳩、世界平和を祈る鳩サブレにして食うその狂気性、好き
豊島屋の前を二度通りすぎ途切れぬ会話がじやまをしている
観光をしてるふりして歩いてるただ歩いてるだけの二人に鳩

427号室 森屋たもん

病室の窓から見える筑波山の前に聳えるジョイフル本田
患者用トイレはたつた一つだけなのに手洗い場は二つある

医師看護師薬剤師みんな親切で患者はたまにやなやつがいる

茹でられたじやがいもの白さ晩飯のおかずがこれだけなことにびびる

夢の中で常磐線はまだ白い 制服で缶ビール飲んでいる

院内にディリーヤマザキがあつて電気代とかは払えないみたい

松戸市に都営の墓地があり松戸市民は入れないってウワサ

外されたプロジェクトのLINEグループに打ち上げの写真 いいねだけする

病室の窓から見える県道で速度超過するすべての車

おままごと 鈴木智花

わたくしはわたくしあなたはあなたのまま本人役でするおままごと

ハレはなくいつでもケの日抱き合つてクリームパンも半分こする

抱き合ふも食ふも眠るも真剣にだから楽しいだから疲れる

壊れ物みたいに大事してくれる壊れないからもつと遊んで

熟れた実を摘みあふキズも不揃ひもすべて楽しむすべて食べる

この遊びいつまでできるなまなまとした幸せに胸やけがする

田舎にいるやべーじいさんコレクション レジを待てずに焼酎をのむ

あらあなた熱ありそろと云いながらわたしの額を触る野呂さん

ミズナラ大事に抱えすこしだけ踊つて帰る奈良さん

ウイスキーボンボンが好きと言うわりに酒は呑めない大山社長

店に来て無言で小銭を置いたまま煙草を買って帰るおじさん

国産が口癖だったヤスさんが夫を亡くして缶詰を買う

偽名 偽名

この車買わなかつて二十年乗つた車を見せられたって

二十円切手3枚2時までに役場に届けろというファックス

たまに来て注文制の商品をまた無いのかよと吐き捨ててゆく

帰ろうとするお客さんを引き留めてそのまま父が話し続ける

負かされる」ことを知つても君を見る産まれたばかりの天気のように

Lamentoといえど五月の雨が降る からずのようにそれを見ている

朝もやは確定演出あかねさす田んぼと田んぼの時間があるく

目の中に迷い込んだかたつむりを潰してあげる六月の夜

Dooooom アンド Groooom の中に一人で住もう悪夢を選んで

オーシャンかシーかで喧嘩したままの僕らが出逢う七月の海

(inside,outside) に海はあり、記憶の中で泳いでいい

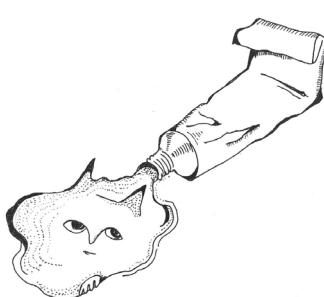
君の手を揉みしだいてる五分後に八月になる不安の中で

人生 ほろんでもいなくとも君が笑えばつられて笑う

ブルタブを引けば真夏がかぐわしい 季節はいつも始まるばかり

X account

深山睦美	@57577_77575
ただのたなか	@Shironopa_ka_
きんかく	@kingkaku_tanka_
彩結ゆあ	@iromusubi_yua
武井窓花	@tanka_madoka
森屋たもん	@monsontanka
全美	@ZENMIN15
鈴木智花	@SuzukiTomoka106
偽名	@tankaofmisaki
海	@umi915uta
吉田岬	@tankaofmisaki



デザイン・編集：はるかぜ

四 優勢論 吉田岬

社会的ダーウィニズムを追いかけて私は子供を残せない方

雨降れば雨の匂いがわからないそもそもなにももうわからない

死のような忘却そしてかなしみのような静寂たちの集まる夜に

仏教の説ける解脱を知りつとも来世の話をすると楽しい

土なべて美しからぬものたちがわたしの足をあたためている

異界なら優生学は単純に普人族みな死すべきでしょう

イカゲームまだ見ていない蠱毒なら生き残つても使われるだけ

剪定を嫌う桜は優しく道染めしのち散りゆく吉野

一度だけ実を付けたのち倒されるバナナを生と君は呼べるか